

わたしの「ふるさと」に出会う

～東京双松会総会に初参加して～

三宅 賢子（旧姓 岡本）
松江北高 1979 年卒、30 期
(2026 年 2 月近況報告)



父の仕事の関係で中学高校だけを松江で過ごした私は、北高卒業以来松江からすっかり遠ざかっている。親しい友人との親交は変わらず続いているが当時を話題にすることはない。昨年は早い時期から関東地方でも松江の情報が多くなり見慣れた風景を目にするようになった。9 月に「ばけばけ」の放映が始まりオープニング画面でかつて住んでいた北堀町界隈の風景が映るといよいよ懐かしく、勇気を出して参加申し込みをした。同時に様々な情景がよみがえった。

入学当時の北高は川津校舎。校内は活気に溢れ出雲弁が元気に飛び交い、勉強は難しくて苦労したが目の前がどんどん開けていく実感があった。古い木造二階建てで廊下は「うぐいすばり」と呼ばれ、イチョウの木漏れ陽が差し込む 2 階の渡り廊下は大好きな場所の一つとなった。高3進級時には川津から現在の赤山に新築移転し、創立 100 周年の提灯行列も経験した。快活な高校時代であったことを今あらためて思う。

2025 年 11 月 15 日、初めて東京双松会総会に出席した。会場の日本プレスセンターの眼下には日比谷公園の美しい紅葉が広がり、真っ青な秋空と霞ヶ関のビル群との調和が見事だった（写真右上）。小泉凡さんのお話は興味深く、門脇早紀さん、門脇勇樹さんの声楽とピアノの演奏は素晴らしい。福引大会では松江銘菓（写真右下）が当



選するという幸運にも恵まれた。

総会には松江在住の友人(1学年先輩)のお仲間数名が参加されていることがわかり、閉会間際にお会いできたことは予想外の愉快な出来事だった。初対面にもかかわらず先輩6人グループの二次会に参加させていただき、先輩、友人、先生、校舎、部活など共通の話題で盛り上がるうちに次々懐かしいお顔や風景が浮かび、もう胸はいっぱい(写真右)。遙か遠い北高時代という私の「ふるさと」に出会ったようだった。そして何より、今も第一線で生き生きと活躍される皆さんとのおしゃべりは刺激的で楽しく、活力をいただいて帰途についた。魅力的な方たちばかり。さすが松江北高!

末筆ながら、東京双松会を運営してくださいます事務局の皆様に心よりお礼申し上げます。

